

茨城県特攻戦没者 慰霊祭に参加して

茨城偕行会 事務局長

佐々木克徳 陸自71

令和元年10月13日(日)茨城県護国神社において茨城県特攻戦没者慰霊祭が斎行され、茨城偕行会は大高哲男会長(陸自66)以下13名の有志が参加した。本行事は、昨年茨城県護国神社へ(公財)特攻隊戦没者慰霊顕彰会より奉納された「特攻勇士之像」の建立により開始されたものであり、主催団体は、茨城県特攻戦没者慰霊顕彰奉賛会(幡谷定俊会長)である。

「特攻勇士之像」奉納事業は、「慰霊を通じて史実を後世に伝え、特攻隊戦没者の精神を今一度国民の肝に銘じ、我が国の末永い繁栄に資することを願った」(日本人の心を伝える会)企画が原点となっている。この趣旨に基づき、全国の護国神社等への奉納設置が行われ、平成19年4月鹿兒島県護国神社に初めて設置後、昨年の茨城県護国神社は18番目の奉納設置となった。

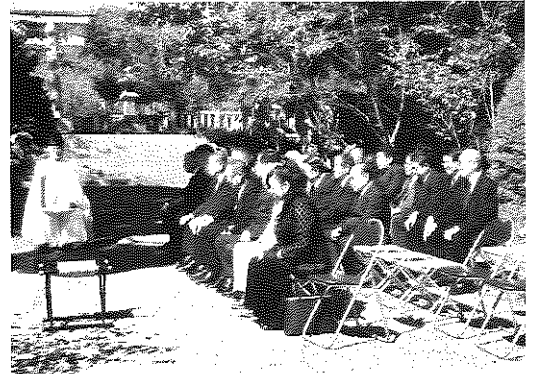
茨城県護国神社への奉納は、平成28年12月、特攻隊戦没者慰霊顕彰会より、茨城偕行会に対して協力依頼があり、護国神社の了解と協力のもと、平成29年6月、茨城県特攻勇士之像建設委員

会(委員長 幡谷祐一茨城県防衛協会会長)を設置、事務局の主要メンバーを弊会役員で編成し、英霊にこたえる会茨城県本部、茨城県隊友会等の協力を得て建設準備を開始した。多くの奉賛者のご協力により、建設事業は順調に進展したが、幡谷祐一建設委員長が急逝されたため、ご子息の幡谷定俊氏(茨城トヨペット(株)社長)に新委員長に就任頂き、10月14日の奉納にこぎつけることが出来た。

多くの奉賛者や会員の浄財とご支援ご協力により完成した「特攻勇士之像」を契機に開始された茨城県特攻戦没者慰霊祭は、弊会活動の原点であり、新事業として積極的に取り組むことを総会において了承を受け、広く会員に案内を行った。

生憎の台風19号の影響で遠隔地よりの来賓や参加者に多数の欠席者が発生する事態となったが、慰霊祭は、台風一過の秋晴れの中、主催者幡谷定俊会長、英霊にこたえる会茨城県本部小原大森会長はじめ、約40名の参列者を迎えて「特攻勇士之像」前で11・00予定通りに開始された。

本行事に先立ち、神社関係者や有志会員により像周辺地域の清掃活動が行われ、掃き清められた境内に凜々しい勇士之像が清々しく輝いていた。神事は、「修祓、一拝、献饌、祝詞

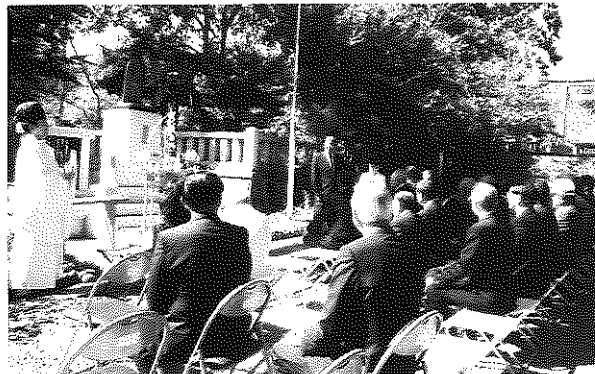


慰霊祭

奏上」と厳かに続き、参加会員の「玉申拝礼」は大高会長にあわせ実施、「撤饌、一拝」をもって無事終了。その場において、幡谷会長より、昭和19年10月25日に行われた敷島隊の特攻に触れて本慰霊祭の意義並びに参列への御礼の挨拶がなされた。

参集殿に移動後の直会は大田保重副会長(陸自71)の司会で開始、佐藤昭典宮司より本日の行事に最も相応しく感じた曲であると、さだまさしの「防人の詩」をBGMに挨拶がなされた。大高会長の経過報告では、奉納後1年間の活動とともに、事業推進の中核として尽力されながら、途上で病を得て本年4月に逝去された故原善昭前会長(陸自57)の御令室原照子様の参列が紹介された。

金澤孝一氏(陸自58)の献杯の発声で和やかに会食を開始。途中には参加者から、特攻に関わる想いのこもった挨拶が続いた。中締めは、英霊にこたえる会小原会長の発声で行われ、2時間に亘る行事は、滞りなく終了した。今後も茨城県特攻戦没者慰霊祭は、毎年10月の第2日曜と予定されており、参加者相互に再会を約しながら、会場を後にした。



幡谷会長による御礼の言葉